

第九拾壹号

春の陶器市特集 4月28日(土)～5月5日(土)開催!

春は蔵ざらえ、秋はおもてなしを主旨に、年2回の
大感謝祭です。

今年が目玉は、5月5日こどもの日にちなんで、節
句人形やひいな祭りに完成させた大型ひな人形5段飾
りを展示場の一角に所狭しと飾っています。有田焼の
柱として有田焼人形産業の育成を掲げて数年になりま
すが、ようやく形が見えてきました。しかし、上絵付
伝統工芸士の角康則がひとりで奮闘していますので、
商品化にはもうしばらく時間がかかります。試作品も
試行錯誤を繰り返しながら進めていますので、気をも
んでいます。来年の今頃に照準を合わせて商品化をし
たいと願っています。



新商品も販売いたします

大有田焼フェア in 日本橋三越本店

6月5日(火)～10日(日)第9回目になります。昭和50年から、大東京の真ん中
で大有田焼展を開催しようとして有田町と業界がひとつになって大イベントを仕掛けて18回
継続しました。第1回目は何と予算が1億円だったと記憶しています。その勢いも時代の
変化と共にしぼんできて18回続いた大有田焼展も中断してしまいました。当時再開する
エネルギーは相当なものでしたが、平成8年度に開かれた世界炎の博覧会のおかげで3年
後に復活しました。それから今年で再生9回目を迎えます。またイベント内容もマンネリ
化して、やはり来年10回記念展が危ぶまれております。有田の窓口も一本化のために鋭
意努力はするものの、強力なリーダーシップ不足でいまだにさまよっています。業界の受
け皿が整備されない状況なのです。いよいよここで小異を捨てて大同につく強い決意をし
なければいけないかも知れません。陶器市準備で忙しいなどと繰り返言を言っている暇は
ありません。将来の有田を見据えて、何が大切か具体的に行動指針を明確にしていかなければ
ならないでしょう。

黒牟田自慢

1期2年の区長職を終え、記念誌として黒牟田自慢を発行いたしました。内容は、黒牟田地区に埋もれている史跡や行事、施設や人物編に分けて、区民こぞって執筆していただきました。そして、題字やさし絵も区民の作品です。2年間コツコツと足で稼いで話を聞き、資料を集めてエッセーとして残しました。区民の個性が随所に出て親しみのもてる冊子になって、一体感や郷土愛の一助になったような気がします。他地区の評判も良くて、各地区の自慢話が掘り起こされる事でしょう。佐賀んもんはPR下手と言われますが、有田焼のルーツというべき様々な話を発信する事は、やきものの付加価値につながるとつくづく思います。

親友が社長に

先日、弊社専務橋口がインターネットで私の親友大林君の新社長就任挨拶要旨を見つけました。前文をご紹介します。

この度、日立ハイテクノロジーズの社長に就任しました大林でございます。社長就任にあたり、日立ハイテクおよびグループ社員の皆さまにひと言ごあいさつを申し上げます。

2001年10月に日立ハイテクノロジーズが誕生してから5年が経過しました。~中略~ 当社はいろいろな会社・組織を統合・再編し、その多彩な経営資源を基に成長してきました。今後これらを礎として2010年に向けてさらなる飛躍が実現できるよう皆さまと一緒に取り組んでいきたいと身の引き締まる思いです。・・・

と、具体的な目標設定をして訴えられていました。特に印象深いテーマが、

1. スピード重視の経営
2. 「明るく風通しのよい会社」「競合に恐れられる会社」

でした。大林君の人柄が目標設定に具体的に表現されていて、企業は人なり、器は人なりをあらためて確信致しました。学生時代から彼には何かとお世話になり、40年以上も親交が続いているわけですが、彼の実績を私達伝統産業にも生かしていかなければ有田の明日はないと断言できます。誇れる友人のひとりとしていつまでも有田焼産業を見守っていただきたいと切に願うものであります。

職人さんのひとりごと - 絵描き座チームリーダー

~ 第7回・下平好則さん ~

主に長崎紋や唐草異人の絵柄を担当しています。

しん窯に入社してもう20年になりますが、毎日やきものづくりの難しさや喜びを感じています。手描きのため、1個として同じものはありませんが、お客様の喜びの声を聞くことに、やっけて良かったと思います。これからも人に喜びと楽しさを与えるものづくりを目指しがんばってまいります。

